

2021 年度(令和 3 年度) 法学部・法律専攻

基礎演習

募集要項

応募期間 : 6月11日（金）12時00分～6月17日（木）12時50分

応募方法 : K-SMAPY II（アンケート機能）

選考結果発表 : 6月24日（木）20時（予定）

発表方法 : K-SMAPY II

【注意事項】

- ◆ 各クラス 20名を上限とします。20名以上の応募があった場合、各教員が指定する方法（志望理由や課題の記述など）に基づく選考が行われます。また、応募者が20名未満の場合でも、志望理由や記述の内容によっては不合格となる場合もあります。
- ◆ 演習の内容や選考方法は担当教員によって異なるので、この募集要項をよく読んで確認したうえで、応募するようにしてください。
- ◆ 担当教員にメールで質問をする際には、氏名・学籍番号のほか件名や宛名を忘れずに記入するようにしてください。
- ◆ 募集枠に余りがある場合に限り、9月に第Ⅱ期募集を行いますが、第Ⅱ期募集の実施は確実ではなく、希望するクラスで第Ⅱ期募集が実施されない場合もあるので、ぜひ今回の募集にエントリーするようにしてください。
- ◆ 「基礎演習」では、毎回の出席が原則です。履修中、やむを得ず欠席しなければならない場合には、必ず事前に担当教員に申し出て、その指示に従うようにしてください。

担当教員名	小原 薫		
担当教員の専門分野	政治学		
	開講曜時	金3限	
演習の概要			
こんな人に来て欲しい こんな人にお勧め	人前で自分の意見を言って、討論する力を養いたい学生にお勧めです。		
授業のテーマ	「読む力」・「話す力」・「聞く力」のレベルアップ		
授業の目的・内容	この授業では、大学での学習に必要となる基礎的な読解力と報告・討論の基礎力養成に焦点を当てます。政治や現代の社会に関する教材を使いながら、要点を的確につかむ本の読み方、自分の主張の論理的な構成方法、他人に自分の主張を正確に伝える発表や報告の仕方、議論の問題点を明確にする質問や議論の方法などについて練習をしてもらいます。		
教科書・参考書			
授業の進め方			
身につくスキル	資料の収集	文章の読解	<input checked="" type="radio"/>
	プレゼンテーション	<input checked="" type="radio"/>	文章の作成
	協同作業	ディスカッション	<input checked="" type="radio"/>
評価方法	平常点（課題の提出状況と授業時での貢献度を加味します）		
教員との連絡方法	メール ohara@kokugakuin.ac.jp		
選考方法	志望理由に基づき選考を行うので、エントリー時にK-SmapyIIの自由記述欄に、この基礎演習の履修を志望する理由を書いてください（300字から500字程度）。		

授業回	内容
第1回	オリエンテーション
第2回	朝日新聞Globe 「支持されそうな人に一票を入れます」
第3回	朝日新聞デジタル「女子のアホのふり」気づかぬ東大男子」、平成31年東京大学学部入学式祝辞
第4回	藤原帰一「民主政治 首の皮一枚」『朝日新聞』、「ミャンマー 外交と人権、「一丁目一番地」は問う」『朝日新聞』
第5回	谷口将紀・宍戸常寿『デジタル・デモクラシーがやってくる!』(中央公論新社)
第6回	谷口将紀「若年層の『保守化』をめぐって」『UP』、豊永郁子「貧困は社会的不正義だと思いますか?」『朝日新聞』
第7回	マイケル・サンデル「レクチャー1 犠牲になる命を選べるか」『ハーバード白熱教室講義録+東大特別講義』上(早川書房)
第8回	丸山真男「「現実」主義の陥穂」『丸山真男集<第5巻>』(岩波書店)
第9回	石橋湛山「大日本主義の幻想」(岩波文庫)
第10回	永吉希久子『移民と日本社会』第2章(中央公論新社)
第11回	ディベート1
第12回	ディベート2
第13回	ディベート3
第14回	ディベート4
第15回	総括討論

担当教員名	姫野 学郎														
担当教員の専門分野	民法	開講曜時	木曜 2限												
演習の概要	演習授業に対応できるようにとにかく実地トレーニングを重ねていく。														
こんな人に来て欲しい こんな人にお勧め	演習授業に参加するつもりだが、いまひとつイメージが浮かばないという人。														
授業のテーマ	法律系の実地トレーニング														
授業の目的・内容	<p>このゼミの目的は、法律系のゼミでやることを実際にやってみることです。レジュメを作り、プレゼンをするわけですが、背後にはいろんな作業ややり取りがあります。これらを順にやっていきます。 内容は以下のとおりです。まず参加者に応じて15週間をいくつかのセットに分けます。たとえば参加者12人とします。4人のグループを3つ作ります。この場合は6セット作ります。第1～3セットは事前に決めてあるテーマ3つについて勉強します（不倫相手に対する慰謝料請求、破綻主義か有責主義か、子からの認知請求）。いまのところ、文章の要約（およびレポートの作成）を考えています。第4セットは第1のテーマをゼミ同様に報告スタイルで準備し、実際に報告します。第5セットは第2のテーマ、第6セットは第3のテーマで同じことをおこないます。その後は各自好きなテーマを選び、1セット報告します。それぞれの報告後時間をとって報告のよかった点、悪かった点を反省します。</p>														
教科書・参考書	未定														
授業の進め方	授業の目的・内容参照。														
身につくスキル	<table border="1"> <tr> <td>資料の収集</td> <td>×</td> <td>文章の読解</td> <td><input type="radio"/></td> </tr> <tr> <td>プレゼンテーション</td> <td><input type="radio"/></td> <td>文章の作成</td> <td><input type="radio"/></td> </tr> <tr> <td>協同作業</td> <td><input type="radio"/></td> <td>ディスカッション</td> <td><input type="radio"/></td> </tr> </table>			資料の収集	×	文章の読解	<input type="radio"/>	プレゼンテーション	<input type="radio"/>	文章の作成	<input type="radio"/>	協同作業	<input type="radio"/>	ディスカッション	<input type="radio"/>
資料の収集	×	文章の読解	<input type="radio"/>												
プレゼンテーション	<input type="radio"/>	文章の作成	<input type="radio"/>												
協同作業	<input type="radio"/>	ディスカッション	<input type="radio"/>												
評価方法	平常点（毎回の出席、議論への積極的参加、等）。あるテーマについて適切なレジュメを作り、プレゼンテーションをすることができるか。														
教員との連絡方法	ghimeno@live.jpに宛ててメール。														
選考方法	志望理由に基づき選考を行うので、エントリー時にK-SmapyIIの自由記述欄に、この基礎演習の履修を志望する理由を書いてください（300字から500字程度）。														

授業回	内容
第1回	オリエンテーション、グループ分け
第2回	第1テーマ（不倫相手に対する感謝料請求）要約
第3回	第2テーマ（破綻主義か有責主義か）要約
第4回	第3テーマ（子からの認知請求）要約
第5回	第1テーマ（レポートを書いてみる）
第6回	第2テーマ（レポートを書いてみる）
第7回	第3テーマ（レポートを書いてみる）
第8回	第1テーマ（ゼミ形式で報告してみる）
第9回	第2テーマ（ゼミ形式で報告してみる）
第10回	第3テーマ（ゼミ形式で報告してみる）
第11回	第4テーマ（あらかじめ示したテーマから選択）
第12回	第5テーマ
第13回	第6テーマ
第14回	振り返り
第15回	まとめ

担当教員名	廣瀬 美佳														
担当教員の専門分野	民法, 医事法, 環境法	開講曜時	月曜3限												
演習の概要															
こんな人に来て欲しい こんな人にお勧め	民法に興味・関心がある人、調べものや文章読解のスキルを上げたい人														
授業のテーマ	わたしたちの生活と民法														
授業の目的・内容	<p>本演習では、我々が生活していく中で関わってくるさまざまな事例について、時には実際に起きて世間の耳目を集めた事件を含めて取り上げ、それらの社会的背景をも視野に入れつつ、民法やその周辺領域の法律がどのように解釈・適用され得るか、考えていきます。その際、関連する判例があれば、これも取り上げ、そうした訴訟にまで発展した事件における当事者の主張や裁判所の判断などを概観してみることにより、みなさんが民法を、ひいては法律を学ぶということについての具体的なイメージを描くことが出来るようになる、その一助となればと考えています。なお、どのような事例を取り上げるかについては、担当教員の側で一応の心積もりはしていますが、最終的には、初回のガイダンス時に履修者のみなさんの関心を聞いた上で、決めることします。</p>														
教科書・参考書	<p>各自、六法必携。なお、授業中に「この本の〇〇頁をみなさい」といった形で使用する教科書はありません。みなさんが普段、自分で勉強する際に教科書や参考書として用いるべき(用いるとよい)と思われる書籍等については、必要に応じて、適宜、紹介します。</p>														
授業の進め方	<p>事前に具体的な事例の内容と調べておくことなどについて指示するので、それに従った予習をしてきて下さい。その上で、何が問題になっているか、どうして問題になるのか、従来の判例・学説はどのように考えてきたのかなどについて、議論していきます。慣れてきたら報告者を決めてレジュメを作成してもらい、当該報告を基に受講者全員で議論するという方法を探ることも考えていますが、最初のうちは、教員が講義・解説したり、受講者を指名して答えてもらう、という形をとる予定です。</p>														
身につくスキル	<table border="1"> <tr> <td>資料の収集</td><td>◎</td><td>文章の読解</td><td>◎</td></tr> <tr> <td>プレゼンテーション</td><td>◎</td><td>文章の作成</td><td></td></tr> <tr> <td>協同作業</td><td>○</td><td>ディスカッション</td><td>○</td></tr> </table>			資料の収集	◎	文章の読解	◎	プレゼンテーション	◎	文章の作成		協同作業	○	ディスカッション	○
資料の収集	◎	文章の読解	◎												
プレゼンテーション	◎	文章の作成													
協同作業	○	ディスカッション	○												
評価方法	<p>●平常点(100%): よく準備した上で積極的に授業に参加したか否かにつき、授業時の発言・レジュメ・報告・質疑応答・議論等、授業への取組みを総合的に評価する ●注意事項: 正当な理由がない遅刻や欠席(特に無断欠席)があったときは、受講資格を失う場合があり得るので、注意すること</p>														
教員との連絡方法	初回ガイダンス時に担当教員の大学宛メールアドレスをお教えします。なお、今年度後期のオフィス・アワーは火曜3限の予定です。														
選考方法	志望理由に基づき選考を行うので、エントリー時にK-SmapyIIの自由記述欄に、この基礎演習の履修を志望する理由を書いてください (300字から500字程度)。														

授業回	内容
第1回	ガイダンス
第2回	第1の事例「おこづかいのはなし」その①： 何が問題となっているか、どのように問題となっているのか
第3回	第1の事例「おこづかいのはなし」その②： どうして問題となるのか、社会的背景はどのようなものか
第4回	第1の事例「おこづかいのはなし」その③： 当該問題をめぐる判例・学説の状況等
第5回	第1の事例「おこづかいのはなし」その④： 当該問題について自分はどのように考えるか
第6回	第2の事例「高齢者とその医療」その①： 何が問題となっているか、どのように問題となっているのか
第7回	第2の事例「高齢者とその医療」その②： どうして問題となるのか、社会的背景はどのようなものか
第8回	第2の事例「高齢者とその医療」その③： 当該問題をめぐる判例・学説の状況等
第9回	第2の事例「高齢者とその医療」その④： 当該問題について自分はどのように考えるか
第10回	第1の事例および第2の事例 まとめ
第11回	第3の事例「未定」その①： 何が問題となっているか、どのように問題となっているのか
第12回	第3の事例「未定」その②： どうして問題となるのか、社会的背景はどのようなものか
第13回	第3の事例「未定」その③： 当該問題をめぐる判例・学説の状況等
第14回	第3の事例「未定」その④： 当該問題について自分はどのように考えるか
第15回	まとめ

担当教員名	藤嶋 亮														
担当教員の専門分野	比較政治	開講曜時	木曜 2限												
演習の概要															
こんな人に来て欲しい こんな人にお勧め	「書くことが何となく苦手だ」「国際情勢に关心がある」等々の場合、積極的に参加して下さい。														
授業のテーマ	アカデミック・スキルズ入門－レポートの書き方を中心に－														
授業の目的・内容	<p>これから大学生活を送る上で、講義・演習の課題としてレポートが出たが、どうやって書けばよいか分からない、あるいは、だいたい論文のテーマは決まったが、書き始められない、等々の「レポート・論文の壁」に直面する可能性が（相当に）あります。これに対する特効薬はありませんが、レポートのルールと多少の「こつ」をつかめば、それなりのものが書けるようになります。内容はもちろん重要ですが、この演習では、まず書き方を具体的・実践的に学ぶことで、「書けない」という問題の克服を目指します。また、レポート・論文を書く際に必要とされる、批判的な分析能力や、論理的に議論を組み立てる（そして説得する）能力は、社会人になってからも確実に役に立つはずです。</p> <p>なお、授業では、国際政治を中心とした時事的問題（例えば世界で続く民主主義の危機や民族紛争など）を中心に、広く社会科学に関連した資料・文献を教材として用います。</p>														
教科書・参考書	特定の教科書・参考書は用いず、教材を適宜配布します。														
授業の進め方	<p>授業の前半では、レポート作成の前提であり、演習形式の授業では不可欠となる、文章の要約、レジュメの作成に重点的に取り組みます。</p> <p>後半では、問題設定、資料収集、途中経過の報告（・質疑応答）、教員による添削等を通じ、レポートの書き方を実践的に身につけていきます。</p>														
身につくスキル	<table border="1"> <tr> <td>資料の収集</td><td><input type="radio"/></td><td>文章の読解</td><td><input type="radio"/></td></tr> <tr> <td>プレゼンテーション</td><td><input type="radio"/></td><td>文章の作成</td><td><input checked="" type="radio"/></td></tr> <tr> <td>協同作業</td><td><input type="radio"/></td><td>ディスカッション</td><td><input type="radio"/></td></tr> </table>	資料の収集	<input type="radio"/>	文章の読解	<input type="radio"/>	プレゼンテーション	<input type="radio"/>	文章の作成	<input checked="" type="radio"/>	協同作業	<input type="radio"/>	ディスカッション	<input type="radio"/>		
資料の収集	<input type="radio"/>	文章の読解	<input type="radio"/>												
プレゼンテーション	<input type="radio"/>	文章の作成	<input checked="" type="radio"/>												
協同作業	<input type="radio"/>	ディスカッション	<input type="radio"/>												
評価方法	平常点（毎回の出席、議論への積極的参加、提出物・レポートの内容）														
教員との連絡方法	メール (rfujishima@kokugakuin.ac.jp) にてアポイントメントをとるようにしてください。														
選考方法	志望理由に基づき選考を行うので、エントリー時にK-SmapyIIの自由記述欄に、この基礎演習の履修を志望する理由を書いてください（300字から500字程度）。														

授業回	内容
第1回	オリエンテーション 【内容・目標】授業内容・評価方法などについて説明、担当教員と受講者の自己紹介。
第2回	文章を要約する（1） 【内容・目標】新聞の記事・論説程度の短い文章を読み、要約を作成。
第3回	文章を要約する（2） 【内容・目標】新聞の記事・論説程度の短い文章を読み、要約を作成。内容に関するグループ・ディスカッション。
第4回	文章を要約する（3） 【内容・目標】課題文献の1章分程度の文章を読み、要約を作成。内容に関するグループ・ディスカッション。
第5回	レジュメを作成する（1） 【内容・目標】課題文献の1章分程度の文章を読み、レジュメを作成。内容に関するグループ・ディスカッション。
第6回	レジュメを作成する（2） 【内容・目標】課題文献の1章分程度の文章を読み、レジュメを作成。内容に関するグループ・ディスカッション。
第7回	レジュメを作成する（3） 【内容・目標】課題文献の1章分程度の文章を読み、レジュメを作成。内容に関するグループ・ディスカッション。
第8回	文献・資料検索ガイド 【内容・目標】図書館資料、新聞・雑誌記事の検索の方法。
第9回	レポート・論文とは何か？ 【内容・目標】レポート・論文の要素・要件。
第10回	レポートの作成（1） 【内容・目標】レポートのテーマ・問題設定の方法。各自のレポートについての中間報告、質疑応答。
第11回	レポートの作成（2） 【内容・目標】文章作成の基本ルール、引用の方法、注・出典の示し方。各自のレポートについての中間報告、質疑応答。
第12回	レポートの作成（3） 【内容・目標】段落の構成、説得力のある議論の作り方。各自のレポートについての中間報告、質疑応答。
第13回	レポートの作成（4） 【内容・目標】推敲の仕方。各自のレポートについての中間報告、質疑応答。
第14回	レポートの作成（5） 【内容・目標】添削について。各自のレポートについての中間報告、質疑応答。
第15回	まとめ

担当教員名	宮下 大志														
担当教員の専門分野	政治学	開講曜時	金曜 3限												
演習の概要															
こんな人に来て欲しい こんな人にお勧め	「議論したい」人、「議論ができるようになりたい」人にオススメです														
授業のテーマ	社会的な問題について考え、議論する練習をしてみる														
授業の目的・内容	<p>まず、「自分なりに論じる」ことに慣れてもらいます。自分が興味を持ったテーマについて論じてみましょう。そして、学生同士で「議論して」みましょう。また、文章をまとめたり、それを「レジュメ」にするという作業も行います。「ややカタメの」本を読み、その内容についてまとめて、発表し、その主張について検討する、というところまで、練習として経験してもらいます。それが、法律を学ぶにしても政治を学ぶにしても、大学での勉強の基本となるからです。そしてその過程で、世間で発表/発行されている文書について「疑う」ということも覚えてもらいます。みなさんは、「活字」になっている主張については、もしかしたらそのまま鵜呑みにしてしまう傾向があるかもしれません。しかしじつは、世の中には対立する意見が飛び交っていて、それを「自分なりに」吟味する必要があるのです。以上のことマスターすれば、さあ、これであなたも、ホンモノの大学生です！</p>														
教科書・参考書	その都度教材を配布します。基本的には社会的なテーマ、政治的なテーマの教材を使用します（判例を議論するとかではありません）														
授業の進め方	授業の進行によって変わっていきますが、基本的にはこちらが提供したり皆さん方に探してもらった材料について、皆さん方に発言してもらう形で授業を進めます。														
身につくスキル	<table border="1"> <tr> <td>資料の収集</td> <td></td> <td>文章の読解</td> <td><input checked="" type="radio"/></td> </tr> <tr> <td>プレゼンテーション</td> <td><input checked="" type="radio"/></td> <td>文章の作成</td> <td></td> </tr> <tr> <td>協同作業</td> <td><input checked="" type="radio"/></td> <td>ディスカッション</td> <td><input checked="" type="radio"/></td> </tr> </table>			資料の収集		文章の読解	<input checked="" type="radio"/>	プレゼンテーション	<input checked="" type="radio"/>	文章の作成		協同作業	<input checked="" type="radio"/>	ディスカッション	<input checked="" type="radio"/>
資料の収集		文章の読解	<input checked="" type="radio"/>												
プレゼンテーション	<input checked="" type="radio"/>	文章の作成													
協同作業	<input checked="" type="radio"/>	ディスカッション	<input checked="" type="radio"/>												
評価方法	平常点により評価します（毎回の出席を当然の前提として、討論への参加度、報告内容、そして（ときどきの）提出物）。														
教員との連絡方法	miyashita@kokugakuin.ac.jp まで、連絡をください。														
選考方法	最近の社会的な出来事のうちあなたが関心を持った出来事を一つ選び、それについて「自分なりに考えたこと」を、エントリー時にK-SmapyIIの自由記述欄に記してください（「志望理由」ではないので注意）。その文章から、社会への関心と「考え方とする姿勢」を評価し、選考基準とします。1,000字程度までに収めてください。														

授業回	内容	
第1回	ガイダンス・自己紹介	
第2回	自分の意見を形成する・発表する：自分で記事を探して（1）	
第3回	自分の意見を形成する・発表する：自分で記事を探して（2）	
第4回	自分の意見を形成する・発表する：自分で記事を探して（3）	
第5回	議論をする：教員の用意するテーマで（1）	過去には、フランスの「公共の場で顔を覆うことを禁じる法律」(ムスリムを意識したもの)の是非や、「貧困は自己責任か社会の責任か」などのテーマで議論をしました。時事問題を扱うこともあります。またここで、文章をまとめる練習もおこないます。
第6回	議論をする：教員の用意するテーマで（2）	
第7回	議論をする：教員の用意するテーマで（3）	
第8回	ディベートをしてみよう(グループによる準備調べ・作戦立案)	
第9回	ディベートをしてみよう(試合)	昨年は、「ふるさと納税制度は、そもそも地方の自治体の支援策として望ましい制度なのか」をテーマにディベートをおこないました。
第10回	ディベートをしてみよう(試合)	
第11回	レジュメを作る：単なる要約ではなく視覚的にも理解しやすいものを	
第12回	ゼミ形式で報告・議論をしてみる：新書を一冊、題材にして（1）	過去には、なぜ就職後短期間で辞めてしまう若者が多いのかという問題から年功序列・終身雇用について考える書籍や、「レストランでみんなと同じものを注文してしまう日本人」が欧米人から批判されている(「没個性！」)ことについて「それがいけないことなのか」と考察する書籍などを使用しました。
第13回	ゼミ形式で報告・議論をしてみる：新書を一冊、題材にして（2）	
第14回	ゼミ形式で報告・議論をしてみる：新書を一冊、題材にして（3）	
第15回	ゼミ形式で報告・議論をしてみる：新書を一冊、題材にして（4）	

担当教員名	本久 洋一														
担当教員の専門分野	社会法（労働法・社会保障法）	開講曜時	月曜3限												
演習の概要															
こんな人に来て欲しい こんな人にお勧め	法律の読み方、判例の読み方を基礎から学びたい。パワハラ、労災、解雇等について学びたい。														
授業のテーマ	労働判例を素材に法律学の基礎を学ぶ														
授業の目的・内容	この演習では、法律学の初学者を念頭に、労働法分野の裁判例を素材として、法律の読み方、判例の読み方の基礎を学んでいきます。なお、この演習では、受講生による発表と討論が授業の中心となりますので、それなりの負担（レジュメの作成と報告の準備、ゼミにおける積極的発言等）が各受講生に求められることを十分にご留意ください。														
教科書・参考書	本久洋一・小宮文人・浅野高宏『労働法の基本 第2版』（法律文化社、2021年）														
授業の進め方	最初は、双方向的に、法律学の基礎を講義しますが、中盤以降は、受講生による発表と、受講生による検討が中心となります。														
身につくスキル	<table border="1"> <tr> <td>資料の収集</td> <td><input type="radio"/></td> <td>文章の読</td> <td><input type="radio"/></td> </tr> <tr> <td>プレゼンテーション</td> <td><input checked="" type="radio"/></td> <td>文章の作</td> <td><input checked="" type="radio"/></td> </tr> <tr> <td>協同作業</td> <td><input checked="" type="radio"/></td> <td>ディスカッション</td> <td><input checked="" type="radio"/></td> </tr> </table>			資料の収集	<input type="radio"/>	文章の読	<input type="radio"/>	プレゼンテーション	<input checked="" type="radio"/>	文章の作	<input checked="" type="radio"/>	協同作業	<input checked="" type="radio"/>	ディスカッション	<input checked="" type="radio"/>
資料の収集	<input type="radio"/>	文章の読	<input type="radio"/>												
プレゼンテーション	<input checked="" type="radio"/>	文章の作	<input checked="" type="radio"/>												
協同作業	<input checked="" type="radio"/>	ディスカッション	<input checked="" type="radio"/>												
評価方法	平常点によります。毎回の授業におけるレジュメ、報告、発言等を審査します。														
教員との連絡方法	k-smaly上の授業QAをご利用ください。														
選考方法	事前にご提出いただいた志望理由書により、選考します。エントリー時に、K-SmalyIIではなく、教員のメールアドレス宛(motohisa@kokugakuin.ac.jp)に、志望理由書(WordファイルA4・1~2枚程度)を送付してください。														

授業回	内容
第1回	法律の読み方：要件効果とその実習
第2回	法律の読み方：法的三段論法とその実習
第3回	判例の読み方：具体的な判決文を素材に、土地管轄、事物管轄、事件番号、事件名、口頭弁論終結日、表題
第4回	判例の読み方：具体的な判決文を素材に、請求の趣旨、請求の原因、主張立証責任
第5回	判例の読み方：具体的な判決文を素材に、主文、事実、理由
第6回	ケーススタディ（1）：パワハラに対する損害賠償請求事件、不法行為法の基礎を学ぶ
第7回	ケーススタディ（1）：発表と討論
第8回	ケーススタディ（1）：発表と討論
第9回	ケーススタディ（2）：職務能力を理由とする解雇に対する地位確認請求事件、契約法の基礎を学ぶ
第10回	ケーススタディ（2）：発表と討論
第11回	ケーススタディ（2）：発表と討論
第12回	ケーススタディ（3）：労災事件に関する取消訴訟を通して、行政訴訟の基礎を学ぶ
第13回	ケーススタディ（3）：発表と討論
第14回	ケーススタディ（3）：発表と討論
第15回	ゼミの総括と今後の学習指示